

経営者 訪問

今までも、これからも、ずっと誠実 ～インフラ事業を通して社会へ貢献し続ける～

瀧上工業株式会社 代表取締役社長 瀧上 晶義 氏



本社：愛知県半田市神明町1-1 TEL:0569-89-2101 URL: <http://www.takigami.co.jp/index.html>
創業：1895年(明治28年) 創立：1937年(昭和12年) 資本金：13億6,125万円
事業内容：橋梁・鉄骨・鉄塔、その他鋼構造物の設計・製作・施工および、これらに附随する一切の工事

弊社の創業は、瀧上卯内が名古屋市内で鍛冶屋をはじめた1895年までさかのぼり、2015年に創業120周年を迎えました。

一世紀以上の間に、橋梁・鉄骨、その他鋼構造物の設計から製作・架設まで一貫した施工を行う専門メーカーとして、時代とともに成長して参りました。本社・本社工場（愛知県半田市）、及び東京・大阪支店に加えて、札幌営業所をはじめとした全国7ヶ所の営業所などの拠点と瀧上グループ企業のネットワークをフルに活かしてさまざまなプロジェクトに参画しています。



【本社工場】



【名港西大橋】



【第二六番町架道橋】

■橋梁の設計・製造・架設のエキスパート

弊社は吊り橋や斜張橋形式の長大橋から比較的小規模の桁橋まで、橋梁を中心に鋼構造物の設計から製造・架設までを一貫して行っています。全国に31社（一社）日本橋梁建設協会加盟社）ある橋梁メーカーの一つで、愛知県では、東海市と四日市を結ぶ伊勢湾岸自動車道の名港西大橋（名港トリトン）や、熱田区六番町の新幹線が通る第二六番町架道橋といった皆さんにおなじみの橋、過去には本州と四国を結ぶ大鳴門橋や明石海峡大橋を手掛けるなど、生活や産業を支える橋を全国各地に建設してきました。

橋の建設には構想から竣工まで長い年月がかかりますが、弊社がかかわる期間は長いプロジェクトで3年程となっており、多い時で年間30件ほどのプロジェクトに携わっています。20万平米を超える本社工場では、設計・鉄板等の材料手配、加工・組立、溶接の工程を経て橋の形状に仮組立をして検査を受け、一旦分解して塗装します。その後、ユニットに分解して主にトレーラーで運搬し、架設現場で再度組み立

てます。

現地ユニットを組み立てる順番を決め、使用するクレーン等の機材を選定する架設計画の立案や架設は現場の地盤や地形等に大きく左右されます。熟練の技術や経験が必要とされるため、長年にわたり多くの橋を手掛けてきた当社の強みが発揮される場面です。

■重要な安全教育、人材育成

巨大構造物を扱うため、小さなミスが死亡災害や重大事故につながるかねません。安全教育を最重要課題ととらえ、工場内はもとより個々の架設現場にも私をはじめとする幹部自らがパトロールに回り、架設計画や現場のチェックを行っています。

人材育成にも力を入れています。土木工事に関する各種の資格取得を推奨し、大学院に学生や研究生として社員を派遣して共同研究を行っています。社内での研究成果は専門誌に論文として発表したり、昭和36年から毎年発行している「技術たきがみ」に掲載し、土木に携わる学生や技術者の方に情報提供

しています。

■いのちの道

インフラ整備に携わる者として、記憶に残る事業があります。2012年に施工した岩手県の普代高架橋建設工事です。工場での検査を終え、架設を待つばかりだった2009年に政権が交代しました。公共工事への風当たりが急に強くなったことや用地買収が滞ったことなどが影響し、工事が5年半ほど中止された間の2011年に東日本大震災が発生しました。震災後、この橋が復興道路に指定されたことを考えると、予定通り完成していれば住民の皆さんの避難経路として、また復旧・復興を支える橋として本来の役割を果たさずにはいられなかったのにと、残念でなりません。この橋は予定より遅れて完成しましたが、住民の皆さんにも大変喜んでいただくことができました。これからも安心・安全・誠実な製品づくりを基本に、インフラ整備を通じて社会に貢献していきたいと考えています。

◆インタビュー後記◆

近年、道路等の整備にかけられる費用が減り、路側帯に雑草が生い茂っているのを見かけるようになりました。瀧上様のお話では、放置すると道路や橋のひび割れから入り込んだ土や水が内部を痛め、劣化を早めるそうです。常日頃のメンテナンスが大切なので、大変心配な状況だとお話をされました。

今回、巨大な橋が作られる過程やインフラ整備にかけられる瀧上様の思いをお聞きすることができ大変勉強になりました。瀧上様にはお忙しい中ご協力いただき、改めて御礼申し上げます。